

「ひらほく新聞」で検索!

★感謝で向かう継続13年目へ★

http://www.hirahoku.com/

☆ぜひ、バックナンバーをどうぞ!

発行所 読売センター平塚北部(ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807



村松さんの量子力学的生き方で人生を「開華」するメルマガ

QR code and promotional text for the book '量子力学的習慣術' (Quantum Mechanical Habit Art).

※具体的な手法はぜひ書籍にて

「量子力学」と聞くと難しく感じるでしょう... 物理・数学が大好きな理系人間となり、あらゆる現象を証明できる物理学で考察、たどり着いた世界。あなたの体を、意識を構成している「素粒子の世界」の不思議な法則。「量子力学を応用すれば、奇跡を起こすことができる」という。村松さんが「うまくいかないあなたの人生を変える」ために書いたという書籍。スピリチュアルではなく、理論と方法を解説した、「量子力学的習慣術」をご紹介します。

量子力学とは?

量子力学とは「目に見えないほど小さい世界」を説明するための学問。これまでの法則、理論が全く通用しない、新たに生まれた研究分野だ。

人間の体も「小さな粒」の集合体ではない。37兆個の細胞は、小さな「分子」の粒の集まり。さらに小さな「原子」の集まり。その中にある、目の前の物体や事象のすべてをつくっている、物質の中で最も小さな粒が「素粒子」。

私たちの体を含め、すべては「在る」のに「見えない」不思議な存在、すべての物体の素粒子がらいつくられていく。

フォトンとは?

それは、「光の素粒子」。あなたの中の原子内にもあるし、周囲にも存在し、物体の中に

「うれしい!」と思うと、全身をつくっているモワモワの雲の中で「うれしいフォトン」が飛び交う。「不安だ!」と思うと、「不安なフォトン」が飛び交う。同時に、そのフォトンが周囲にも飛び出していく。

フォトンとは、「粒」でもあり、「波」でもある

あなたが発した「粒」や「波」は、周囲にも影響し、物質や事象に影響を与える。たとえば『鬼滅の刃』の「全集中」とは、意識を高めて「振動数」、つまり「周波数」を上げることだと考えれば、発揮される超人的な力を納得できる。

周波数を変えようと、今も未来も過去も変わる

また、フォトンが感情によつて状態が変化、「ポジティブな感情」のほうが振動数は高くなり、その波からはポジティブな物質化が起る(ネガティブは逆)。

ゼロポイントフィールド

ゼロポイントフィールドは素粒子の発生源であり、すべての物質の源で、私たちがくっついている原子の中に広がっている。いっぽうで宇宙のすべてにも広がっている。意識(フォトン)をぶつけると、素粒子が飛び出る。

あなたの「意識」も「感情」もフォトンでできている

意識も感情も目には見えないが、その正体はすべて「フォトン」だとされている。

私たちはゼロポイントフィールドの中の一部だ。すべての人、モノ、現象はゼロポイントフィールドでつながり、受け取っている。脳がゼロポイントフィールドとつながると、あなたも「神ってるレベル」になれる。(村松さんの)塾の「ゾーン」に入ったことのある生徒たちの体験談から考えると、つながりやすいポイントは、「楽しい!」「ワクワク!」「高い集中状態」「自分を生かす」。脳のバージョンアップを学び、多くの子が体験している。

「神ってるレベル」の力を出す 3つのポイント

自分の振動数(Hz)を高めると、ゼロポイントフィールドの高い振動数帯からエネルギーや情報を引き出すことができる。ポイントは「時間」と「空間」と「メンタル(エネルギー)」。

空間を味方に

空間は「空っぽ」ではない。日々のちよつとした意識の差が空間の濃度を変える。密度の高い(濃い)空間はフォトンが多く、振動数(Hz)が高い。つまり、思考が物質化しやすく、願いも叶いやすい。

時間を変えよう

楽しい時間は早く過ぎ、つらい時間は長く感じるように、脳科学の立場では時間は定まっている。脳は自分に必要なものしか認識しないので「集中」すればするほど「認識する量」は増え、時間は「早く」進む。つまり、「集中」することによつて「時間をズラす」ことができる。

「愛や感謝の心」

「愛や感謝の心」は、一点集中、「得意なこと」からやる。「愛や感謝の心」は、一点集中、「得意なこと」からやる。

「意識(振動数)」を変えるだけ。テレビのチャンネルを変えるように「幸せHzの世界」にシフトすれば、「過去も未来もずっと幸せ」という状態になれる。書籍では、ご本人の実体験の他、「どうせ無理の世界」や「つらい過去を引きずる世界」から脱却できた、多くの方の事例が紹介されている。

「神ってるレベル」の力を出す 3つのポイント

自分の振動数(Hz)を高めると、ゼロポイントフィールドの高い振動数帯からエネルギーや情報を引き出すことができる。ポイントは「時間」と「空間」と「メンタル(エネルギー)」。

時間を変えよう

楽しい時間は早く過ぎ、つらい時間は長く感じるように、脳科学の立場では時間は定まっている。脳は自分に必要なものしか認識しないので「集中」すればするほど「認識する量」は増え、時間は「早く」進む。つまり、「集中」することによつて「時間をズラす」ことができる。

「愛や感謝の心」

「愛や感謝の心」は、一点集中、「得意なこと」からやる。「愛や感謝の心」は、一点集中、「得意なこと」からやる。

「愛や感謝の心」

「愛や感謝の心」は、一点集中、「得意なこと」からやる。「愛や感謝の心」は、一点集中、「得意なこと」からやる。

空間は「空っぽ」ではない。日々のちよつとした意識の差が空間の濃度を変える。密度の高い(濃い)空間はフォトンが多く、振動数(Hz)が高い。つまり、思考が物質化しやすく、願いも叶いやすい。

空間を味方に

空間は「空っぽ」ではない。日々のちよつとした意識の差が空間の濃度を変える。密度の高い(濃い)空間はフォトンが多く、振動数(Hz)が高い。つまり、思考が物質化しやすく、願いも叶いやすい。

時間を変えよう

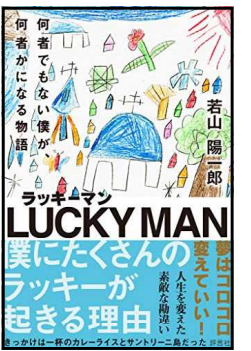
楽しい時間は早く過ぎ、つらい時間は長く感じるように、脳科学の立場では時間は定まっている。脳は自分に必要なものしか認識しないので「集中」すればするほど「認識する量」は増え、時間は「早く」進む。つまり、「集中」することによつて「時間をズラす」ことができる。

「愛や感謝の心」

「愛や感謝の心」は、一点集中、「得意なこと」からやる。「愛や感謝の心」は、一点集中、「得意なこと」からやる。

「愛や感謝の心」

「愛や感謝の心」は、一点集中、「得意なこと」からやる。「愛や感謝の心」は、一点集中、「得意なこと」からやる。



若山陽一郎さん「LUCKY MAN」の表紙

元TRFバックダンサー。元世界一周バックパッカー。多額の借金がキックカケで28歳で不用品回収業で起業し、顧客満足調査で愛知県No.1に。カンボジア学校建設。女性向け講演活動「あげまん講座」は口コミで三千名もが受講。■数々のピンチがあったおかげで、様々なラッキーを起せるようになったという。

若山陽一郎さんの自伝書、「ラッキーマン」より、奇跡の感動美話を紹介する。

## 『ココイチ感動物語』一杯のカレーライス

若山陽一郎さんは、TRFのバックダンサーの経験をきっかけに、自分の可能性だけを信じて21歳で岐阜県から上京。貯金もなく、幼馴染みのワンルームマンションに居候、仲間3人との生活。家賃を滞納、食事はデパ地下の試食だけ。

そんな時、当時付き合っていた彼女が岐阜から上京。小銭をかき集めても四百円だけ。2人で歩いていると、吉野家と、ココイチ（カレーハウスCoCo壱番屋）が並んでいて、迷ったが、カレーを選んだ。四百円で頼めそうなのは、ポークカレー一杯のみ。小さなプライドだが、おごら

せるわけにはいかない。「ポークカレーを一杯ください。2人で分けて食べます」恥ずかしくて店員と目を合わせることができなかった。すると、優しく素敵な笑顔でこんな言葉が返ってきた。「はい、ポークカレーですね。取り皿もお持ちしますね。少々お待ちください」たくさん注文したお客様への対応とまったく変わらない、むしろそれ以上だと感じた。カレーを分け合った彼女も、こんな貧乏デートでも楽しそうな顔をしてくれた。おなかは満たされなかったが、胸はいっぱいになった。

その店員さんが褒められたらいいなと思いついて、テーブルの端にあったアンケートハガキに、感謝と感動の言葉をつづった。温かい接客の様子を詳しく書き始め、自分が感じたことだけでなく、自己紹介や夢までビッシリ書いてしまった。

それから約1カ月後、自宅にココイチからの封筒が届いた。開いてみると、それは直筆のメッセージ。「お客様のハガキを読み、胸が熱くなりました。自分も貧乏をしていた時代があるので、お客様の気持ちはよくわかります」ビッシリ書かれていた締めくくりは、「夢を諦めないでください。

くじけそうになったらまたココイチに来てください。いつでも温かいカレーを作ってお待ちしております」書いたのはココイチ創業者の宗次徳二さん。定型文ではなく若山さんだけに宛てられた手紙で、三千円分の食事券も入っていた。2人で三百八十円しか使っていない、顔も見たこともない客に対して直筆の手紙と三千円の食事券のプレゼント。胸にズーンと響くものがあった。宗次さんの手紙が心をつかんだのは、ビジネスだけを考えたものではなく、心から若者を応援したいという気持ちが伝わってきたからだ。

ロースカツとホウレン草をトッピングしたカレーを口にしながら、食の細い婦人がいつものように半分分けてくれたとき、10年前の記憶がフラッシュバック！婦人に話すと、涙を流しながら「さすが、あの宗次さんだわ」と言われた。一宮市はココイチの本社があり、創業者の宗次さんは地元でも有名なのだという。食事後、2人で訪ねた先、目的の人は紡績会社の会長だった。着くなり婦人に勧められ、カレーを分け合った話をした。すると、喜んでくれるどころか険しい表情で「その話の続きはないのか？」と問われた。

「君は大事なことを忘れているぞ！なぜ、宗次さんにお礼を言わないのだ？おかげで命拾いしたと言いつつ、ただ感謝しているのならば、一度くらい会いにいつて、お礼を言うことは考えなかつたのか？」と尋ねる。会長はその場で電話、地元の経営者同士でつながりのある宗次さんに会えるようアポをとってくれた。

事務所に通されると、宗次さんがいた。若山さんは緊張しながら、当時の手紙と食事券のお礼、心からの感謝の気持ちを伝えた。きつと覚えていないだろうと思っていたが「覚えていよ、鮮明に。確か夢はダンサーだったかな」と…。手紙をもらってからは、自分が歩んできた紆余曲折の道のりを説明すると、こんな言葉をかけてくれた。「あの時の君への三千円の投資は大成功だった。こんな形で会いにきてくれて、大いに儲かったよ。逆にありがとう」

## 編集後記

『天の意志のもとで働きます！』を伝えている村松大輔さんは、生まれてきた意味を子どもたちへ伝える活動『開華』の一環として、「どうせ自分なんて」という思いを学校教育から変えさせるため、超党派の国会議員多数と民間人が集結し、本年1月に発足した「教育立国推進協議会」(会長に自民党の下村博文元文部科学相に参加、自身の活動を真摯に提案している。

若山陽一郎さんの書籍には、本人が数々のピンチから引き寄せた多くの奇跡体験が登場する。現在では、「新しい命を吹き込む」をコンセプトにした次世代の斬新なりサイクルショップ「RE-SQUARE BANU」をオープン。全国から人が集まる話題の店となり、さらに百年後の未来に子供達が笑顔でいられる世の中を創る夢へと邁進している。

お二人を突き動かしているものは何か。感謝で有難くつながる先祖からの大切な思い。そして、見えない「大いなる何か」に守られ、感じ、受け取る「使命」に他ならない。お二人だけが特別ではない。誰もが平等に授かっていることを理解してもらいたい。

ハイハイを自ら危険だと諦める赤ちゃんはいない。そこには余計な声かけをすする大人たちがいるだけだ。何歳からでも「大いなる何か」とつながり、その「使命」を実感してほしい。

著者本人の体験を描いたという文庫版「余命10年」を感動読了。自費出版から10年後2017年出版の文庫版は、難病を患っていた著者小坂流加さんが当初避けていた闘病シーン等が大幅に加筆・修正。しかし、編集終了直後に病状が悪化、小坂さんは刊行を見ることなく発売3か月前の2月に逝去したという。

公開中の同作映画を有難く鑑賞した。実病名を開示、生業を著者同様執筆活動に、彼氏の人物像、多くの家族の葛藤場面、想像の夢の未来、共感を呼ぶ結末等々、原作と大きく違う部分。そして一年かけて撮った四季の彩り。想いを受け取った監督、両主役の「使命」が紡がれ、小坂さんの伝えたかった「使命」「生きる意味・生き抜いた姿」が見事に表現された映像に、止め処なく切ない思いが溢れた。



映画『余命10年』特別予告↓

かけがえのない命を使う自らの「使命」、あらためて胸に刻み、全うしよう。